

柏市新中央図書館整備基本計画有識者懇談会  
( 第 3 回 )

会議資料

平成 1 9 年 1 1 月 2 7 日

柏 市 教 育 委 員 会

# 1 新中央図書館の基本的な考え方

基本構想における考え方

## ■そもそも図書館に求められていたもの(図書館法)

- 図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存すること
- 一般公衆の利用に供すること
- 教養、調査研究、レクリエーション等に資すること

## ■これからの柏市の図書館に求められること

- 「図書」という資料にとどまらない多種多様な「情報」に触れやすく活用しやすい環境を作り出すこと
- 市民一人ひとりが自己を高め、自立的な判断を行い得るような情報で支えること
- 様々な交流によるまちの活性化と柏らしい地域づくりを実現するための情報拠点となること

## ■新中央図書館が目指すもの

図書館サービスの原点を踏まえるとともに現代的な課題にも対応し得る情報拠点の核を目指す

### 「市民」をつなぐ

- ・あらゆる人に生涯を通じた学習機会を提供していくために
- ・いわゆる「団塊の世代」をはじめとする中高年層の方々の新たな活動へ向けた情報収集の場としていくために
- ・通学や通勤、買い物、研究など様々な目的で柏市を訪れる人々にも、柏市の情報をはじめとする多様な情報を提供していくために

情報が人を呼ぶ

### 「資源」をつなぐ

- ・柏市の豊かな歴史、文化等に係る情報を収集、整理、保存、提供し、次世代の文化を創造していくために
- ・大学図書館やさわやかちば県民プラザ、かしわインフォメーションセンター、柏市民活動センターなど特色ある機関や施設と連携協力し、幅広い情報を効率的に提供していくために

情報が情報を呼ぶ

### 「分館」をつなぐ

- ・身近で、気軽に利用でき、課題解決が図れる地域ニーズに沿った分館としていくために
- ・分館を、市民や企業等が行っている自主的・自立的な公益活動を情報面で支援する地域拠点としていくために

情報が活動を支える

基本計画における方向性

厳しい財政状況を鑑み、経営意識を持って、図書館運営を行う

- ・市民による評価
- ・データベースや会議室の貸し出しなど、有料サービスの実施
- ・新たな財源の確保
- ・事業手法・運営手法の見直し

図書館本来のサービスに忠実であること

図書館法に定められるサービスを確実にを行うことを前提に、独自のサービスを展開する

- ・バランスのよい資料収集・整理・保存・提供
  - 柏市関連情報の収集・整理・保存・提供
  - 様々な媒体の資料収集・整理・保存・提供

マネジメント意識を持つこと

時代の変化に対応しうること

現在直面している高齢化や国際化など、新たな課題解決に役立つ最新の情報を提供する

- ・フレキシブルな施設整備
- ・ニーズの適切な把握(市民とともに成長する)

## 2 資料計画の考え方

### ■ 柏市立図書館における課題（基本構想にて）

#### ア 施設が古く、狭い

現在の本館は、施設規模は決して大きいとは言えず、建設後30年以上が経過しています。また、蔵書数の増加に伴い、書架スペース、保存庫、通路等一杯の状態となっています。そのため、新しいサービスの展開はもとより、障害者サービス用のスペース、ボランティア活動用のスペースの確保が困難となっています。

#### イ IT化が遅れている

図書館に設置されているOPACは図書を検索するだけのシステムとなっており、そこからの予約や図書に関連した様々な情報を付加し、発信・提供できるシステムとはなっていません。また、図書館のホームページは、図書館の利用案内、行事予定等が主となっており、図書館からの情報発信ツールとして活用されていません。

#### ウ 開館時間が短い

本館の開館時間は、基本的に午前9時30分から午後5時までとなっており、月曜日、年末年始等が休館日となっています。そのため、夜間に利用できず、都内に通勤している社会人等にとっては、利用しづらい状況となっています。

#### エ ボランティアの運営参加ができない

図書館が主催するイベントや様々な機関との連携によるイベントは、ほとんど行われていない状況です。

市民の学習意欲に応え得る様々な知的創造活動のための機能が図書館に求められている現在、十分に対応できていない状況にあります。

#### オ その他の課題（ARA）

上記の他に、子どもの本と指導がない等の児童サービスの不足、レファレンス機能が充実していない、読書が困難な人のための配慮がなされていない等、図書館の重要な役割を十分に果たしていない状況にあります。

### ■ 新中央図書館の基本的な考え方

図書館本来のサービスに忠実であること

マネジメント意識を持つこと

時代の変化に対応しうること

### ■ 付加価値

柏文化の継承・創造

効率的な運営

市民とともに成長  
まちづくり支援  
課題解決支援

### ■ 資料計画の方針

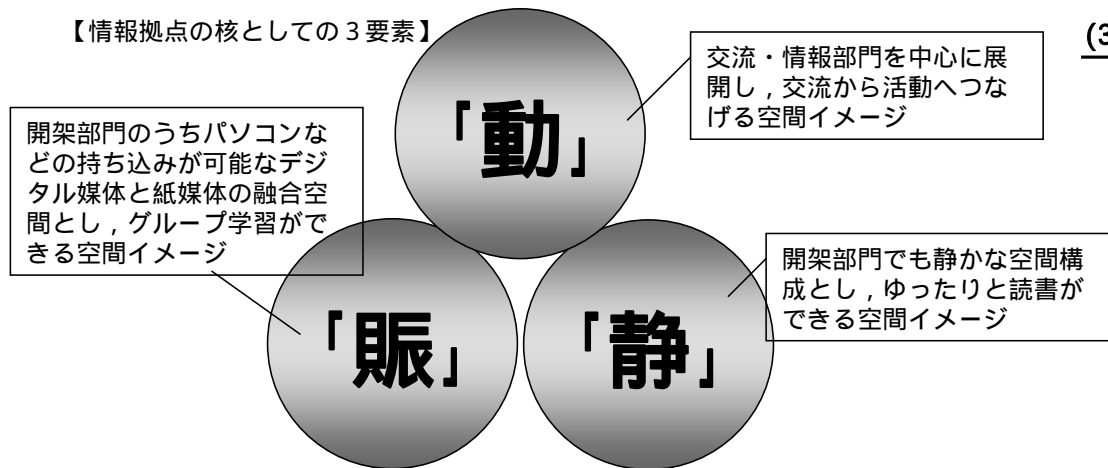
- ・ 柏の歴史・文化に関する情報の収集
- ・ 今までの柏，つまり柏市の歴史や文化，伝統等を集積
- ・ 現在の柏，つまりレイソルやウラカシ，路上ライブなどの柏の現在を反映する情報を収集

- ・ 分館・関係機関との連携による効率的な収集
- ・ 資料情報の共有により，無駄のない資料の収集

- ・ 市民活動の支援及び活動の記録等に関する情報の収集
- ・ データベース等時代に合った記録媒体の情報の収集
- ・ 時代のニーズ，市民のニーズを適切に把握した資料の収集

### 3 施設構成及び要素

【情報拠点の核としての3要素】



#### (1) 図書館への導入部門

- コンパクトで身近な総合案内
- コーヒーでも飲みながら本を読める空間イメージ

レセプションスペース

エントランススペース

#### (2) 開架部門

図書 180,000冊, 閲覧席 420席

- 用途に応じたゆとりのある閲覧席
- 4段書架をベースにフロア - 全体を見渡せる快適な空間イメージ

貸出・返却スペース

一般開架スペース

(図書 140,000冊 閲覧席 245席)

レファレンススペース

行政・郷土スペース

(図書 25,000冊, 閲覧席 70席)

学習スペース

(閲覧席 80席)

青少年スペース

(図書 5,000冊, 閲覧席 10席)

児童開架スペース

(図書 10,000冊, 閲覧席 15席)

障害者サービススペース

#### (3) 交流・情報部門

図書 20,000冊, 閲覧席 150席

- 情報拠点の核として、さまざまな活動を生み出す交流スペース
- まちの元気の源、活気あふれる空間イメージ

青少年交流スペース

児童交流スペース

集会・研修スペース

(図書 10,000冊, 閲覧席 100席)

ボランティアスペース

(図書 10,000冊, 閲覧席 50席)

フリースペース

#### (4) 書庫・管理部門

- 自動化書庫と可動式集密書庫の併用型
- 学校図書館との連携の拠点

書庫スペース

管理・運営スペース

#### (5) 共用部門

その他・共用スペース

(トイレ, 機械室, ダクトスペース, その他 床面積の約5%として)

##### <規模算定の基礎>

目標来館者数 100万人

目標蔵書数 57万冊

座席数 約420席: 図書館機能部分

約150席: 市民交流部分

##### <魅力ある図書館空間のポイント>

(1) 配置・配置計画

(2) 資料の規模とサービス構成

(3) ゾーニング

(4) カウンター, 家具, サインの配置とデザイン

(5) 空間の快適性

(6) その他の建築的配慮